

## ICTを活用した教育体制構築に関する実証事業 報告書

1. 学校名	
カイロ日本人学校	
2. テーマ	
「児童生徒の学びの保障」 「ICTを活用した授業の実施と学びの有効性」	
3. 取組の概要	
<p>(※報告書の内容を要約し、200～400字程度で記載してください。)</p> <p>「非常時でも途切れない学びの保障」のため、今年度本校ではインターネット環境の整備、ICT 機器及び周辺機器の整備と充実に重点を置いて実証事業に取り組んだ。具体的には、① 各教室の Wi-Fi 設備設置、② インターネットの整備とオンライン (Zoom) の導入、③ PC周辺機器 (タブレットペンシル・タブレットキーボード・プロジェクター・スクリーン・プリンター・ワイヤレスアンプ) の整備、④ 学習ソフトウェア (デジタル教科書・教育アプリ) の購入である。</p> <p>この取り組みにより、緊急時にも対応できる環境が整い、これらを使用することで非常時においても児童生徒と学校がつながり、より良い学びの実現が可能となった。</p>	
4. 取組の背景・目的	
<p>(※非常時でも途切れない「学びの保障」の在り方と関連づけて記述してください。)</p> <p>エジプトは昨年度末から新型コロナ感染拡大で、多くの児童生徒が日本への帰国を余儀なくされた。4 月当初から 7 月まではオンラインでの授業とし、日本とカイロをつないで学習活動を展開した。2 学期から児童生徒が登校できるようになり対面授業が可能となったが、カイロに戻ることでできない子どもや一時帰国等で日本に帰る子ども、また、自主隔離中の子ども達に向けて、可能な限りオンラインによる授業を行った。オンライン授業の足りない部分については資料や宿題を作成し、点検活動を行いながら遅れの出ないように配慮した。そうすることで登校後の学習において、他の児童生徒と同様の学習進度で授業を再開できるようにした。</p>	
5. 取組の実施日程	
日程	取組内容
4 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Wi-Fi アクセスポイント設置</li> <li>・Zoom によるオンライン授業 1 学期開始・・・(資料 10・11)</li> </ul>
7 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Zoom によるオンライン授業 1 学期終了</li> </ul>
11 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャパNDER: 現地校との交流 (文化交流・学校紹介等)・・・(資料 1)</li> <li>・学習発表会準備</li> <li>・学習発表会・・・(資料 2)</li> </ul>
12 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン授業アンケート実施・・・(資料 8・9)</li> </ul>
1 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・購入物品の発注、設置</li> <li>・ICTを使った授業研究① 小学部 6 年国語科・・・(資料 6)</li> <li>・ICTを使った授業研究② 小学部 2 年生活科・・・(資料 5)</li> <li>・職業講話 小学部 5・6 年、中学部・・・(資料 3)</li> </ul>
2 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本一時帰国児童に対する授業</li> <li>・ICTを使った授業研究③ 小学部 1～3 年体育・・・(資料 4)</li> </ul>

## 6. 具体的な取組内容 (※詳細に記載し、付属資料があれば添付してください。)

### 【重点目標】

#### ①Wi-Fi の設置について

昨年度まで職員室とパソコン室でしかインターネットが使用できなかったが、各教室にルーターを設置したことで、以下の成果があった。

- 1) 教員が教室でオンライン授業をすることができるようになった。
- 2) 子ども達が積極的にパソコンや iPad を使うようになった。
- 3) 子ども達が ICT 機器の操作に慣れることで、オンラインになってもスムーズにつながるができる。

#### ②インターネット回線の整備と Zoom の導入について

- 1) 回線自体は不安定であるが、2つの回線を引くことで対応できることが増えた。
- 2) インターネット会社の方で常時データのバックアップを取っているの、管理上安心である。
- 3) Zoom の導入により、非常時でも学習する環境を整えることができた。4月の導入時には1日1時間程度の時間割構成となっていたが、6～7月にはネット回線の充実や Zoom の使用に慣れてきたことから時間数を増やし、図工や体育など授業内容も工夫できるようになった。また、現地校との交流、職業講話等でも使用することができ、タイムリーに質問や意見を交わすことができた。

#### ③PC 周辺機器の整備について

- 1) コンピューター整備事業において iPad を入手し、それに使用するためのキーボード、タッチペン、カバーなどを購入できたことで、安心して子ども達が使える環境が整った。また、非常時には貸し出しができる体制がとれた。
- 2) レーザープリンターの導入により、資料の印刷や PDF 化が容易となり、メールに添付したり、宿題をプリントアウトして各家庭に届けたりと、オンライン授業だけでは足りないところを十分に補うことができた。
- 3) プロジェクター、スクリーン、ワイヤレスアンプは現在講話朝会等で使用している。これから行われるお別れ会、卒業式等でも使用予定である。すでに自宅待機が決定している児童がいるため、お別れ会、卒業式の様子などを欠席児童にも配信し一緒に参加できる状況を作る。また、今後も同じような状況下ではプロジェクター、スクリーン等を利用し、場の雰囲気や臨場感をともに味わえる環境を作っていく。

#### ④デジタル教科書について

- 1) 4 月当初、学校が休校措置をとっていたため、日本にいる教員及び児童生徒は手元に教科書がない状態で授業が始まった。さらに、帰国中の児童生徒は全国各地に広がり、各自治体によって教科書が違うため共有することが難しかった。デジタル教科書の導入は、非常時において教員、児童生徒が一度に同じ学習媒体を共有でき大変画期的である。現在は授業内で使用するとともに、欠席児童にも活用し、同じ学習進度を保っている。

## 7. 取組の成果

(※どのような課題をどのように解決したかや、生徒・児童への効果等について詳細に記載し、成果物があれば添付してください。また成果がどのような観点で他の学校の参考になるかも記載してください。)

### 【課題と解決法】

本校はこれまで ICT を使った授業実践が十分に行われていなかったといえる。理由としては、①エジプトにおける ICT 機器が高価なものであること、②Wi-Fi の通信状況が安定しないこと、③日本の製品を入手することが難しいことがあげられる。この度、コンピューター支援事業及び ICT 実践事業校として認定を受けたことで、前述の 3 点について解決することができた。

①に関してはコンピューター支援事業においてノートパソコン4台とiPad7台を購入し、児童生徒数に見合う台数をそろえることができた。また、実践事業予算においてレーザープリンターや大型テレビ等の周辺機器も十分に設置することができた。これにより、教員、児童生徒ともにICT機器を活用する機会が増え、使用方法、学習方法を学び実践に生かせるようになった。本校は今年度2学期から再開し対面授業ができていたが、一度コロナ禍の影響で休校の危機があった。そのような状況下でも、児童生徒、教員、保護者が落ち着いてオンライン授業の準備ができたのは、備品や設備の充実のおかげといえる。

②に関しては、各教室にWi-Fiのルーターを設置したことで、どの教室でもICT機器の使用が可能となった。今まで、職員室で何台かパソコンをつないでZoomを行い、ハレーション等を起こしていたが、各教室で使用することで解消した。また、小学部の低学年には黒板を使って効果的に文字の練習などができるようになった。

③に関しては、まだまだ難しいところはあるが、この度デジタル教科書を購入できたことで、教室における授業では視覚的にも聴覚的にも有効であり、オンライン授業でも学校の授業と変わらない効果を得られることがわかった。

### 【児童生徒への効果】

児童生徒への効果としては①ICT機器の使用や扱いに慣れたこと、②欠席している間の授業内容が家庭でできること、③急なオンライン授業においても落ち着いて対応できること、の3点があげられる。

①に関して 事業開始後、ICT機器の使用率が格段に上がったことが理由と考える。保護者からのアンケートにも、「オンライン授業は保護者の負担が大きい」との意見があったので、児童生徒が自ら操作でできることで保護者の負担も減り、教員間とのやり取りもスムーズにできる。

②に関して 2学期以降保護者の仕事や移動の関係で日本に一時帰国する児童生徒が数名いた。日本に帰っている期間はもちろん、2週間の自宅待機の期間においても可能な限りオンラインでつなぎ、授業を行ったり宿題の確認をしたりとZoom、PDF等を駆使して、登校後遅れの出ないように配慮することができた。特に1学期間のオンライン授業においては、別紙「オンライン保護者アンケート」からもわかるように、日本の学校がオンラインや学校再開する以前から先取りで取り組むことができ、高評価を得ている。

③に関して 前述したが、コロナ禍により休校の危機を迎えた時にも、全教員全家庭が落ち着いて準備することができた。パソコンやiPadも貸し出しできるよう準備し、教員もオンラインの授業を行った。結果的には大事に至らず閉校することはなかったが、備品の充実や通信の安定、児童生徒と教員の経験は安心感につながった。

### 【購入備品及び設備の使用について】

#### ①通信費(インターネット関係・Zoom使用料)

オンライン授業、学校メール、ホームページ、校内Wi-Fi使用

#### ②備品

大型テレビ・・・各教室に設置(授業での使用・オンラインでの使用等)

レーザープリンター(パソコン室に設置)・・・宿題プリント類の印刷、PDFの作成

プロジェクター・・・学校行事での使用、各種講演会での使用

(今年度はコロナ禍によりオンラインでつなぎ欠席生徒も参加)

#### ③消耗品

キーボード・・・iPadに設置

iPadカバー・・・iPadに設置

タッチペン・・・iPadに設置

Office2019・・・校内パソコンにインストール

(今まで正規版の Office がインストールされていなかったため)

ワイヤレスマイクアンプ、スクリーン……学校行事での使用、各種講演会での使用

(今年度はコロナ禍によりオンラインでつなぎ欠席生徒も参加)

HDMI Wi-Fi……大型テレビに設置 5 段三脚……記録用で使用

デジタル教科書……授業で使用

### 【成果物】

成果物として以下のものを提出する。

- ①研究授業指導案 3 点、オンライン授業実践例 1 点
- ②現地校との交流報告書、学習発表会報告書、職業講話実践報告書
- ③オンライン授業における保護者アンケート
- ④オンライン授業における教員アンケート
- ⑤オンライン授業時間割

### 【他校への参考事項】

- ①危機管理及び学習保障のマニュアルを児童生徒、教職員、保護者が共通理解しておくこと

本校は 4 月からオンライン授業を行っていたため、メール文や URL の送付方法、時間割の管理について教職員と保護者間で共通理解を図っていた。そのため、休校の危機に際した時もオンライン授業用の時間割を作成し対応することができた。また、教員間も経験があったため、授業準備が容易にできた。非常時における学習方法についても研修等を行った。また、学校メール等を活用し不安のないよう家庭と密に連絡を取ることも大切である。

- ②備品について

海外において日本製のように性能の良い備品をそろえることは難しい。現地の情報を集め、子どもたちが使用できるものや代替えできるものを探して使用していくのが良い。

## 8. 今後の課題・展望

(※次年度以降への継続性及び発展性に言及してください。)

エジプトも未だコロナ禍にあり、予断を許さない。いつオンラインになるかわからない状況である。急な非常時に備えて、各機器の点検や準備を十分に行うとともに、教員と児童生徒が非常時における授業の方法について共通理解を図っておく。また、今後これらの機器をどのように活用すればより効果が得られるのか検証して実践していく。次年度は授業内でも ICT 機器を使う機会を増やし、研究授業等を通して様々な使用方法やプログラムなど教員の資質向上にもつなげていきたい。

## 9. 所感

本校のような小規模校は整備にかけられる費用が捻出しにくいいため、今回の事業に参加させていただいて本当によかった。整備事業を進めるにあたり、求めるものがエジプトという国において容易に入手できない、日本からも入らないなど不便な状況もあったが、代替品等で対応でき、「非常時でも途切れない学び」の基盤はできたと感じる。オンライン保護者アンケートでも、「学校が休校していてもオンラインがあったおかげで生活のリズムができた。」「オンライン授業のおかげで、進度に遅れがなく学校再開後の授業についていけた。」等の好評価を得た。また、ICT 機器の充実で、本校の児童生徒、教職員ともに意識の変化が見え始めている。今後もこれらを有効に活用する方法を模索しながら、児童生徒が自ら学びを深める学習に結び付けていきたい。

※提出いただいた報告書や成果物は、本事業の取組成果として公開する予定です。また、記載いただいた内容は文部科学省や海外子女教育振興財団のその他の資料にも使わせていただく可能性があります。

※記入欄は適宜拡張してください。